

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 52-029625

(43)Date of publication of application : 05.03.1977

(51)Int.Cl. F16L 21/08

(21)Application number : 50-106318 (71)Applicant : KUBOTA LTD

(22)Date of filing : 01.09.1975 (72)Inventor : KOSHO KENJI

(54) CONSTRUCTION FOR PIPE JOINT

(57)Abstract:

PURPOSE: Devised is an anti-vibration type pipe joint capable enough to be free from any leakage of gas or water, and to display a strong airtight, or gas tight capability.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

BEST AVAILABLE COPY



特 許 原 則 第 4 号 第 2 号
昭和 50 年 9 月 1 日

特許庁長官殿

1. 発明の名称

管継手構造

2. 発明者

住所 兵庫県尼崎市大浜町2丁目26番地
久保田鉄工株式会社 武庫川製造所内
氏名 古 庄 義 次

3. 特許出願人

住所 大阪府大阪市東淀川区山崎3丁目28番地
名義 (105) 久保田鉄工株式会社
代表者 廣 田 太 郎

4. 代理人

住所 〒550 大阪府大阪市西区阿波野町1丁目81番地
アキノビル 電話 大阪 06 (543) 4085 (代)
氏名 (6808) 弁護士 藤 本 義 弘

5. 添付書類の目録

(1) 明 細 書 1 通 (4) 原 告 申 本 1 通
(2) 図 面 1 通
(3) 発 任 状 1 通

明 細 書

1. 発明の名称

管継手構造

2. 特許請求の範囲

受口と挿口との間に圧嵌されたパッキンから成るシール部と、挿口の受口からの放出しを阻止するロック部とを有する管継手において、前記ロック部を、挿口先端の突部と、挿口に外装されて前記突部に係合可能な第1のロックリングと、受口内周面に形成したロックリング溝内に嵌合し合すべく延在付勢力をもって形成された第2のロックリングとに結合した状態で前記第1のロックリングに係合可能な第2のロックリングとから構成したものを特徴とする管継手構造。

3. 発明の詳細な説明

本発明は管継手構造に関し、特に可視性と漏脱防止機能を合わせ持つ耐漏形管継手構造に関するものである。

一般に耐漏形管継手構造は、第1図に示す如く、互に圧嵌される管の受口(1)と挿口(2)との間に本密

⑩ 日本国特許庁

公開特許公報

⑪ 特開昭 52-29625

⑫ 公開日 昭 52. (1977) 3. 5

⑬ 特願昭 50-106318

⑭ 出願日 昭 50. (1975) 9. 1

審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号

6802 26

⑮ 日本分類

65 A 511

⑯ Int. Cl?

F16L 21/08

的に介装されたパッキン(3)と、該パッキンを押圧して受口(1)と挿口(2)との間に圧嵌する押部(4)とから成るシール部(5)を有すると共に、受口(1)内周面に形成されたロックリング溝(6)内のロックリング(7)を受口(1)の外側からロックボルト(8)により押圧して挿口(2)に外装させ、このロックリング(7)と挿口先端突部(9)との結合により挿口(2)の受口(1)からの放出しを阻止する様に構成されたロック部(10)を有している。しかしながら、前記ロック部(10)は、前記シール部(5)においてパッキン(3)を押部(4)により押圧する関係上、シール部(5)よりも挿口(2)先端突部(9)の受口奥側側に設けられているので、ロックボルト(8)の嵌合部から管内迄の漏れを生ずる恐れがあり、特にガス等の気体の場合には大きな問題となる。

そこで、本発明はガス用又は水運用の耐漏形管継手として用いてガス洩れ又は水洩れを生じる恐れが全くなく、かつ強力な気密効果を発揮せしめ得る耐漏形管継手構造を提供しようとするのである。

以下、本発明の一実施例を図2図に基づいて説



明する。図は受口で、該受口の先端部内端面には外延がりのテーパを付してシール用パッキン環の位置決め用嵌合部テーパ面が形成され、その奥側に環状のロックリング部が形成され、また受口側の最奥部には挿入部端面が形成されている。図は受口側の先端に形成された締付用フランジで、その両方向に散置所に締付用型ボルトの挿入穴が形成されている。該は嵌合パッキン環を押圧する押輪で、前記締付用フランジの挿入穴の対応する挿入穴が形成されており、これら両挿入穴図にわたって挿入した締付用型ボルト図とアット図により押輪を介して前記パッキン環を嵌合部テーパ面と挿入部外端面に向けて押圧し、受口挿入部の気密を保持する様式してあり、これらパッキン環と押輪とによりシール部が構成されている。図は挿入部であり、図は挿入部先端外側に設けられた突部で、該突部は次に述べる各口クリングと共にロック部を構成している。すなわち、図は挿入部外装された第1のロックリングであって、前記挿入部突部に嵌合可能



のロックリング面を、順次その先端側から嵌合していき、この押口面を受口側内に挿入する。次に、第1のロックリング面を挿口側先端側へ押し込む。第2のロックリング面は受口側内へ押し込むことにより受口側の位置決め用該当テーパ面とを介してその直径付勢力に依りて軸圧されながらロックリング溝位置面に至り、その直径付勢力によってロックリング溝内にはめ込まれる。以後、バックアップリング面、バックアップリング面を押し込んだ後、押口面と受口の面付フランジ面とを主軸ボルト面とナット面とにより締付けることによりバックアップリング面を軸圧し、この部分がシールされて軸が完了する。

以上詳述した様に、本発明電機手歯車は開口部止め用口ック部を、開口先端の突部と、開口内嵌されて回転部に接合可能な第1のロックリングと、開口内周面に形成して口ックリング溝内に嵌入係合すべく突起付勢力をもって形成されかつロックリング溝に接合した状態で前記第1のロックリングに係合可能な第2のロックリングとから



特開 昭52-29625(2)

である。両舷の舷口ロックリング溝内には嵌合係合すべく凸性付勢力をもって形成された1つ側の第2のロックリングであつて、ロックリング溝内に係合した状態で前記第1のロックリング部に係合可能である。前記第1のロックリング部も、押口先部受部部を盛して押口部外面側に外嵌できる係合1つ側に形成され、凸性部付勢力をもって形成されている。かくして押口部の嵌け出しは、受部部が第1のロックリング部を介してロックリング溝内に嵌合係合している第2のロックリング部に係合することにより阻止される。また、突部部が第1のロックリング部と押口部先端部部との間で固定と移動できる際に両者部部間に所定の間隙を設けてあるため、船進時に船體の動きに対応する受口部押口部の相対移動を行ふことができ、かつ最終的を嵌け出しは勿論阻止され、よつて衝撞減能をもつのである。

支口則と推口四との進税にあつては、第3の函
に示す様に、惟口必に押驗係、バックイン側、バック
アップリンク側、第2のロックリング側、第1



眠るので、従来の硬なロックボルトや、管交口に
 穿設されるロックボルト用ねじ穴を無くして、交
 口からの挿口の抜け出しを阻止することができ、
 従ってガス洩れ、木腐れ等を生じる恐れのない全
 方位管継手を提供でき、特に洩れが原因となるガス
 用の管継手補正として極めて有効であり、しかも
 シール部材、継手の可塑性、脱脱防止機能も一
 般の剛直型管継手と比べて劣ることがない。

4. 図面の簡単な説明

第1区は一般の新築形骨格手車造の狭小地区、第2区は本苑内古型手車造の元新築区、第3区は在来形の古型外観を有する建群地区である。

151…シール紙、150…ロック部、141…受け、142…
 パッキン、143…送込テーブル面、144…ロックリン
 径、145…押口左端壁面、146…給付用フランジ、147…
 押通穴、148…押板、149…給付用主駆動ルト、152…
 押口、153…押口先端突起部、154…第1のロックリン
 ク、155…第2のロックリンク

代理人 森 本 義 弘

BEST AVAILABLE COPY

